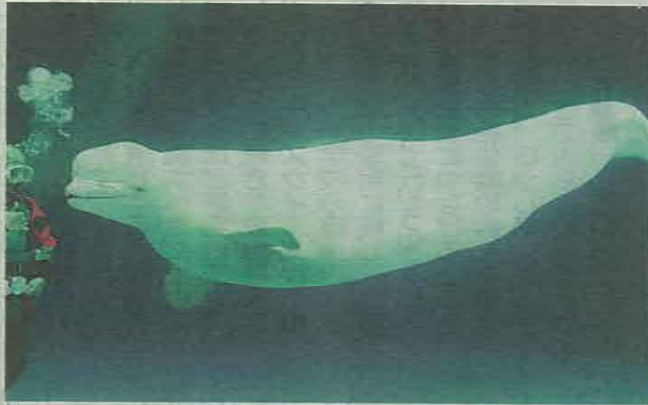


# イルカ能力人間並み

イルカが物とそれを表す文字、鳴き方をセットで記憶し、指し示したり鳴いたりできることを実験で確かめた。村山司・東海大教授(動物心理学)らの研究チームが30日、英科学誌サイエンティフィック・リポーツに発表した。人間以外でこうした能力が確認されたのは初めてという。村山さんは「人と同じような過程で物の名前を覚えた。イルカが人に近い言語能力を持つことが分かった」と話す。

【永山悦子】

## 物・文字・音声 一緒に理解

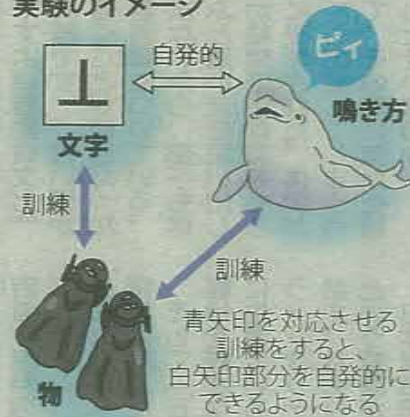


物を表す文字と鳴き方を覚えたナック  
 千葉県鴨川市の鴨川シーワールドで、村山司・東海大教授提供

デジタルプラス  
 動画

### 東海大チーム初確認

イルカが物の文字と鳴き方を覚える実験のイメージ



ナックが覚えた言葉と文字

対象物	鳴き方	文字
マスク	ビー	R > O
バケツ	ウォ	
長靴	ホゥ?	

実験したのは、鴨川シーワールド(千葉県鴨川市)で飼育されているシロイルカの「ナック」(推定32歳)。まず、潜水などで使うフィン(足ひれ)を見せたら「ビー」と鳴き、「上」の文字を選ぶように訓練。また、それとは逆に音声を聞かせたり、文字を見せたりするとフィンを選ぶようになった。さらに、文字と鳴き方の関連は教えていないのに、フィンがなくても「上」を見せると「ビー」と鳴き、「ビー」と聞かせると「上」を選ぶようになった。村山さんは「このような覚え方をするのは」

は人だけだ。チンパンジーやオウムはできない」と注目する。マスク、バケツ、長靴も同様に、それぞれを表す鳴き方と文字を覚えることができた。実験ではヒントを与えないように人の視線を隠したほか、ほうびの餌も与えなかった。イルカは、口ではなく頭の上にある呼吸孔から鳴き声を出す。ナックは飼育員が言葉に出した「ピヨピヨ」「おはよう」など8種類の言葉をまねた鳴き声を出したことで、2014年に注目を集めた。ただし、この時は単なるオウム返しだった。村山さんは「ナックは物の意味を理解していると言える。次は動詞を覚えさせることに挑戦し、人とコミュニケーションができるようにさせたい」と話す。